

市民団体協働による群馬の 交通まちづくり提案

交通からまちづくりを考える会 前橋

湯沢 昭 森田 哲夫 ○金井 雅弥 篠原 蓮 鈴木 伶 戸村 昂太郎

• 群馬県の公共交通分担率

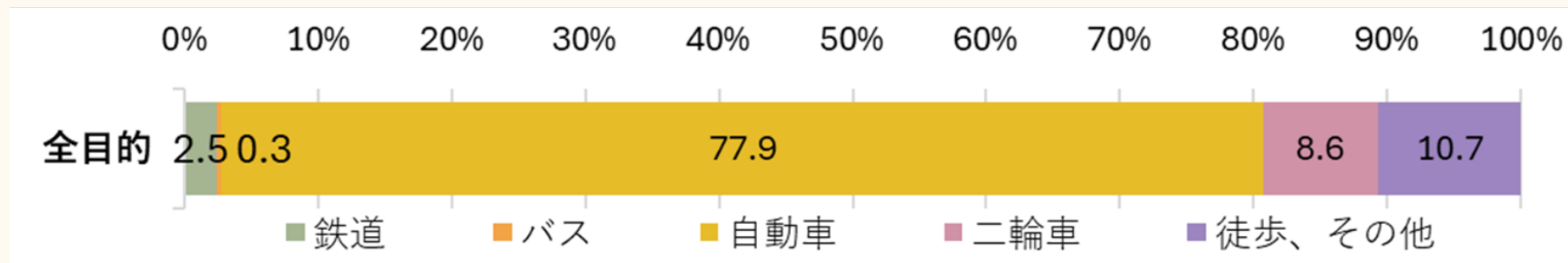


図 群馬県全目的代表交通手段 (群馬県交通まちづくり戦略より)

鉄道：2.5% バス：0.3% 合計：2.8% 他都市と比べて低い

- 人口減少や乗務員不足の影響でサービス低下
⇒さらなる利用者の減少が危惧
- 群馬県で活動する7つの市民団体等が結集し
交通まちづくり提案をとりまとめた



図 上毛電気鉄道

1. 提案までの経緯

- 合同検討会のまえに群馬県ではこれまでさまざまな交通計画を策定し、公共交通の利便性向上と利用促進に取り組んできたが実現されず計画止まりとなっている

右図は2009年に群馬県鉄道網活性化研究会により行われた群馬県の鉄道網活性化に向けた提言

多くは実現されずに提言どまり
⇒計画の方向は評価するが、実現に向けて目標を掲げつつ実現可能なプロジェクトを含めて改善を図る必要性

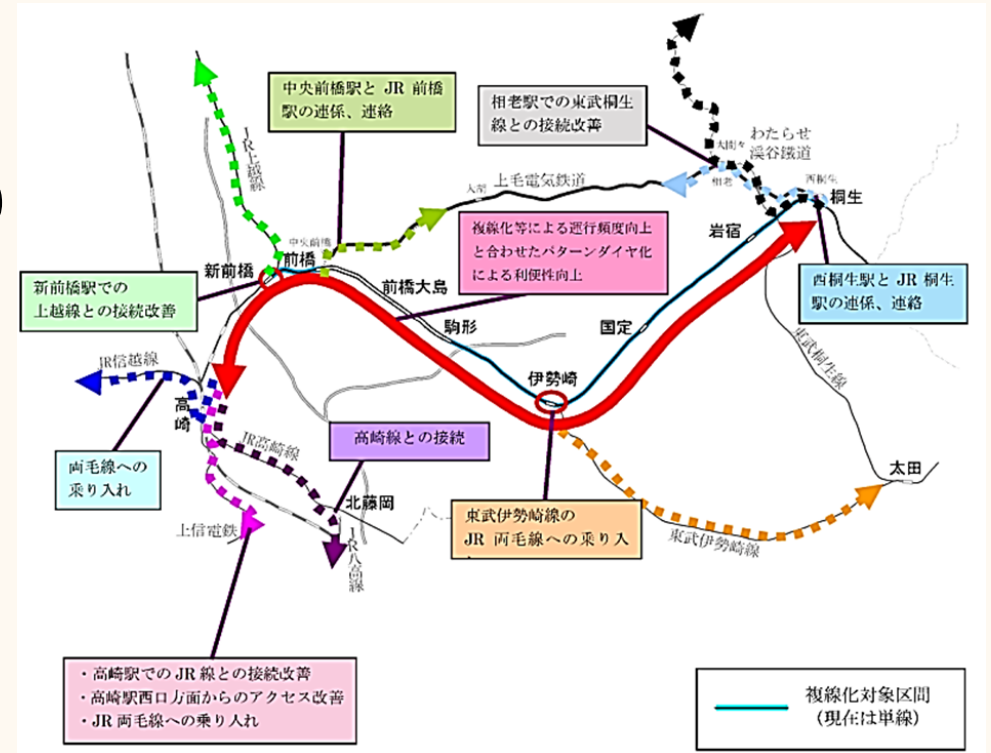


図 群馬県の鉄道網活性化に向けた提言 (2009)

1. 提案までの経緯

• 合同検討会のまえに
群馬県ではこれまでさまざまな交通計画を策定し、
公共交通の利便性向上と利用促進に取り組んできたが
実現されず計画止まりとなっている

群馬県では1981年にノーマイカーデーが県庁職員中心に
月に1日（途中から2日）始まった
当初こそ実施率は85%と高かったものの実施率は年々低下し
1996年に廃止された
⇒率先して動くべきの公務員の関心が薄れたことで、
良い政策が終了し、現在まで実施されることはなくなった



図 ノーマイカーデーに無関心
(上毛新聞1989.8.12)

- 2025年5月

群馬県内の交通7団体が結集し、合同検討会を計5回開催

ぐんねつと構成団体

交通からまちづくりを考える会 前橋、2015年からの生活交通をつくる会、わたらせ渓谷鐵道市民協議会、上毛電鉄友の会、のりのり学会、群馬県立前橋高等学校 鉄道研究部・同窓会、前橋工科大学 地域・交通計画研究室



図 合同検討会の様子（第1回）

• 2025年12月

「将来の公共交通を考えるシンポジウム」のコーナー
「前橋市の公共交通への提案」にて
前橋工科大学 地域・交通計画研究室の学生が発表
提案内容の一部を市民や行政に公表

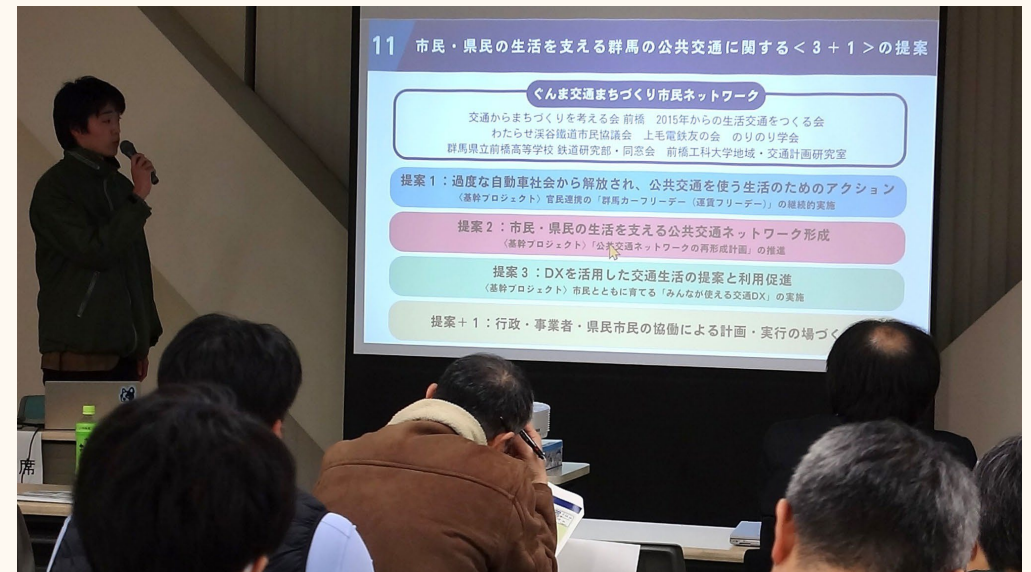


図 前橋市主催シンポジウムでの発表の様子

2. 本提案の位置づけ

- 本提案は群馬がめざす「まち」のイメージを実現する手段
“交通”は単なる移動手段ではなく、生活・経済・社会を支える基盤
持続可能で魅力ある地域づくりの装置として位置づけ

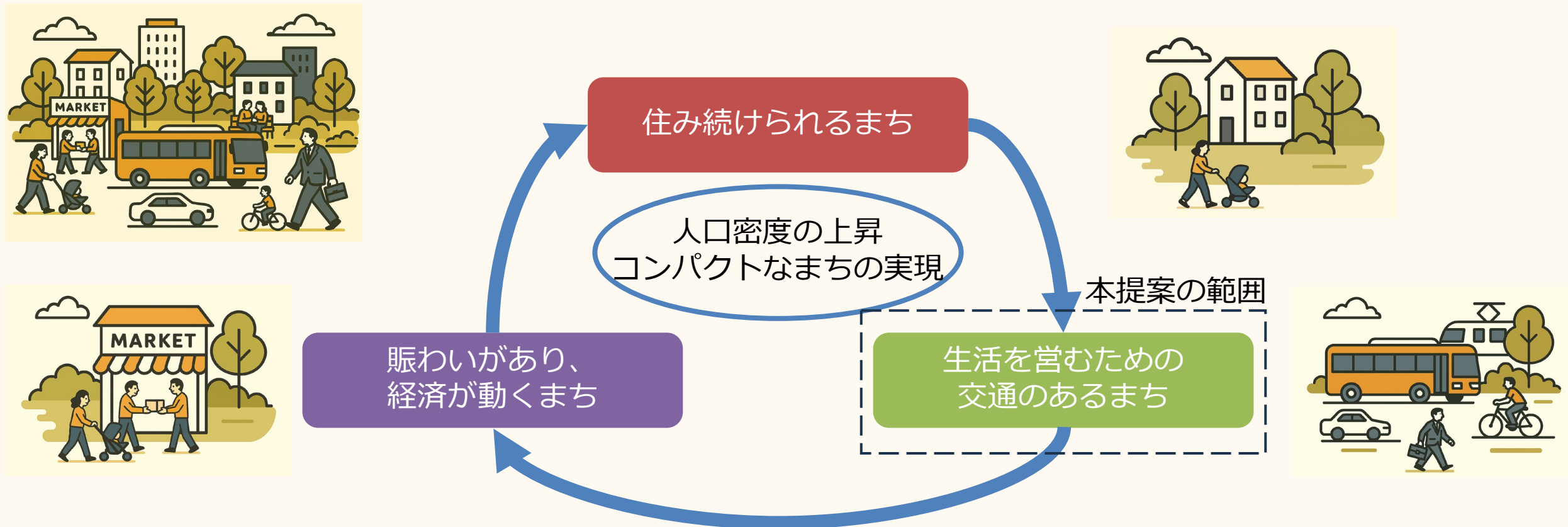


図 めざす「まち」のイメージと本提案の位置づけ

3. 市民・県民の生活を支える群馬の公共交通に関する〈3 + 1〉の提案

3 + 1の提案

提案1：過度な自動車社会から解放され、公共交通を使う生活のためのアクション

〈基幹プロジェクト〉官民連携の「群馬カーフリーデー（運賃フリーデー）」の継続的实施

提案2：市民・県民の生活を支える公共交通ネットワーク形成

〈基幹プロジェクト〉「公共交通ネットワークの再形成計画」の推進

提案3：DXを活用した交通生活の提案と利用促進

〈基幹プロジェクト〉市民とともに育てる「みんなが使える交通DX」の実施



提案+1：行政・事業者・県民市民の協働による計画・実行の場づくり

〈基幹プロジェクト〉行政・事業者・県民市民の協働による「ぐんま交通まちづくりネットワーク」

図 市民・県民の生活を支える群馬の公共交通に関する〈3 + 1〉の提案内容

提案 1 : 過度な自動車社会から解放され、 公共交通を使う生活のためのアクション

9/16

〈基幹プロジェクト〉

官民連携の「群馬カーフリーデー（運賃フリーデー）」の継続的实施
カーフリーデーの実施で公共交通の認識を広め、利用してもらい、最終的に生活に取り入れてもらえる活動が必要！

• 個別の提案

乗り方教室等の教育機関における利用促進
公務員や大学等の率先した利用
高齢者の公共交通を取り入れた生活の提案



提案2：市民・県民の生活を支える 公共交通ネットワーク形成

〈基幹プロジェクト〉

「公共交通ネットワークの再形成計画」の推進

認知された公共交通がネットワークとして機能する必要がある
⇒幹線的な公共交通ネットワークへ

・個別提案

公共交通分担率の目標設定と評価
地方都市圏平均の6.3%まで
倍増を目指す！

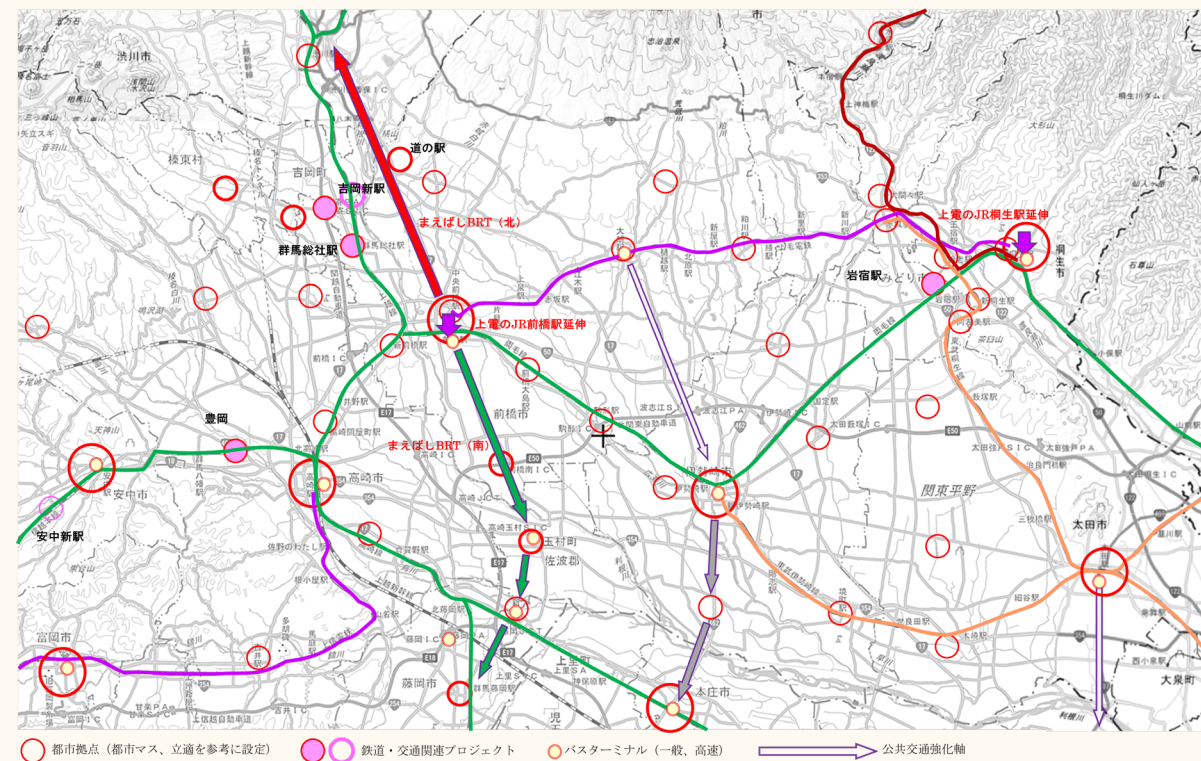
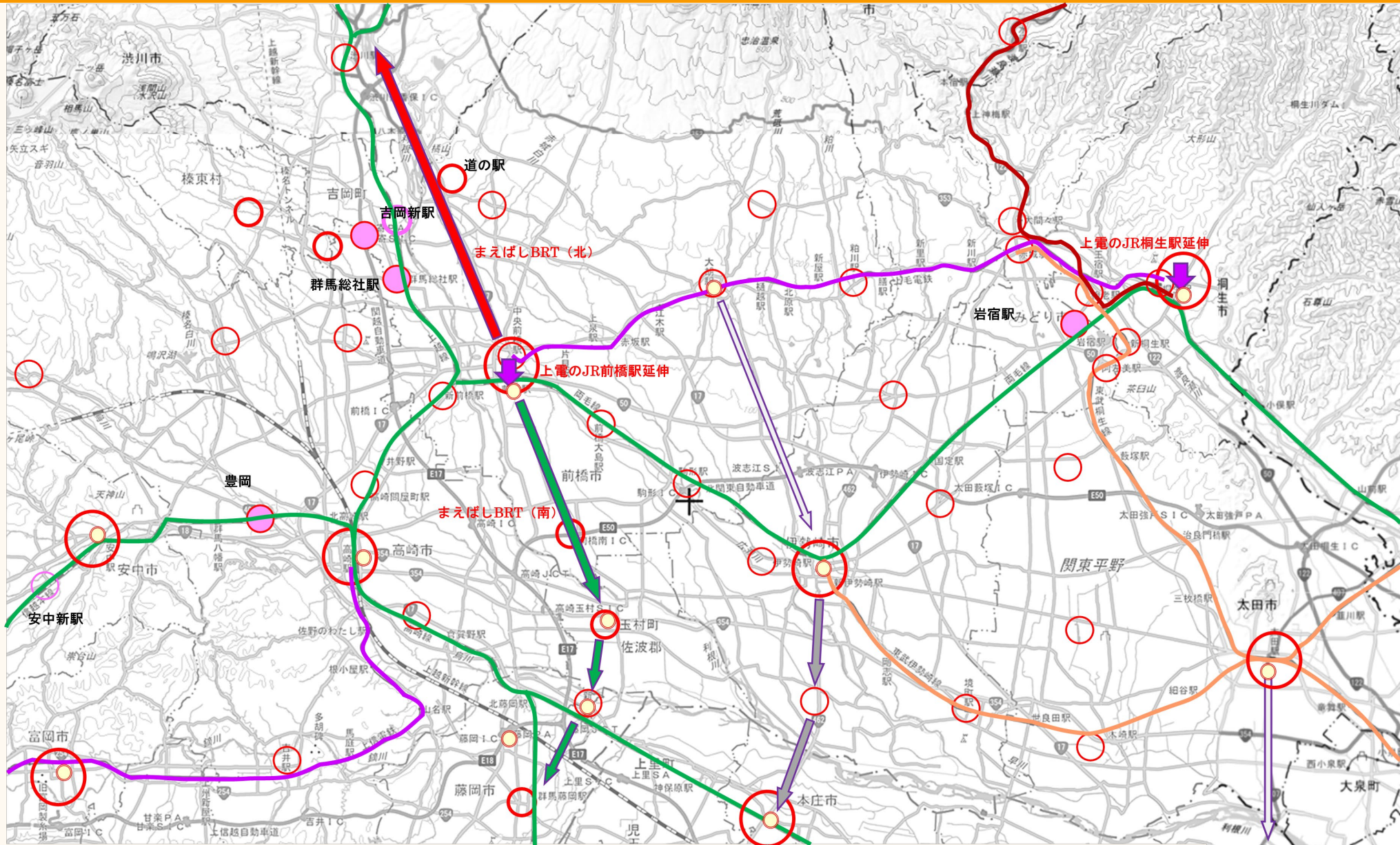


図 幹線的な公共交通ネットワークの提案

幹線的的な公共交通ネットワークの提案



○ 都市拠点 (都市マス、立適を参考に設定) ● 鉄道・交通関連プロジェクト ● バスターミナル (一般、高速) ⇨ 公共交通強化軸

提案2：市民・県民の生活を支える 公共交通ネットワーク形成

12/16

〈基幹プロジェクト〉

「公共交通ネットワークの再形成計画」の推進

認知された公共交通がネットワーク
として機能する必要がある
⇒幹線的な公共交通ネットワークへ

・個別提案

公共交通分担率の目標設定と評価
地方都市圏平均の6.3%まで
倍増を目指す！

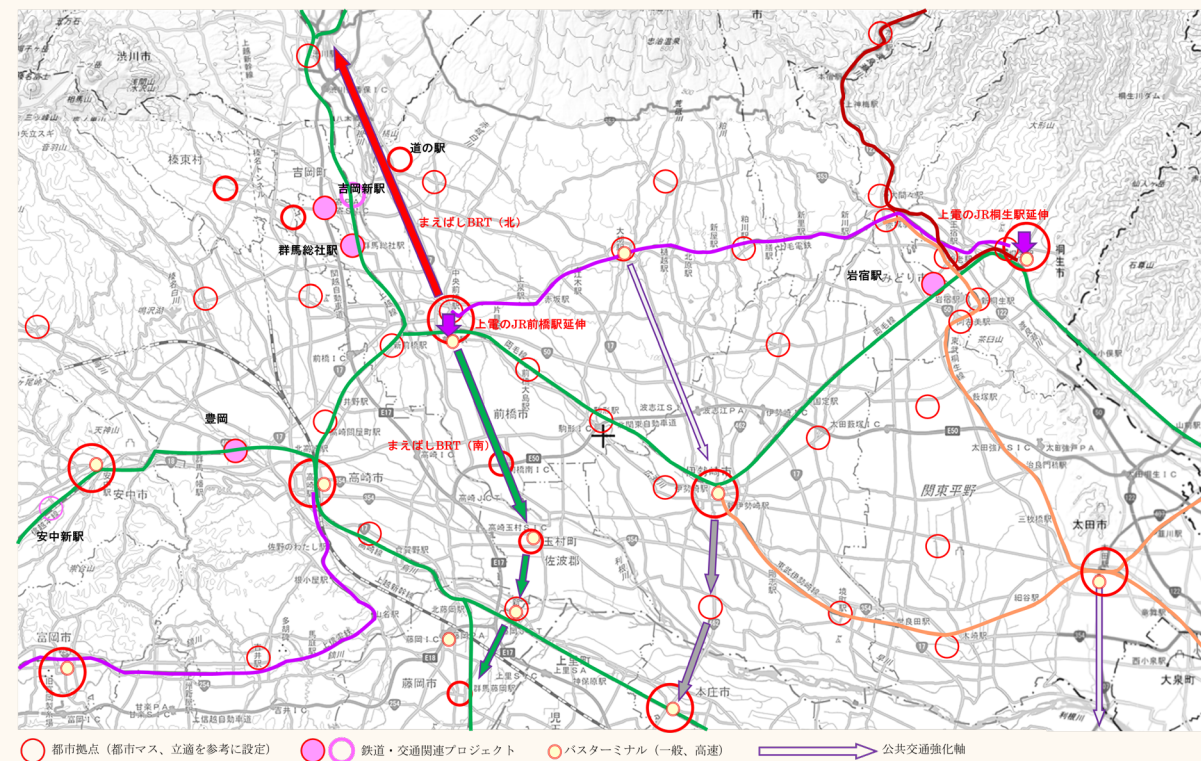


図 幹線的な公共交通ネットワークの提案

提案3：DXを活用した交通生活の提案と 利用促進

〈基幹プロジェクト〉

市民とともに育てる「みんなが使える交通DX」の実施

DXは「便利になること」が目的ではなく、

「誰もが安心して移動できる社会」をつくるための手段

• 個別の提案

県内すべての交通手段の段階的統合と

一元決済システムの導入

市民割やバス定期券のサービス範囲を全県へ

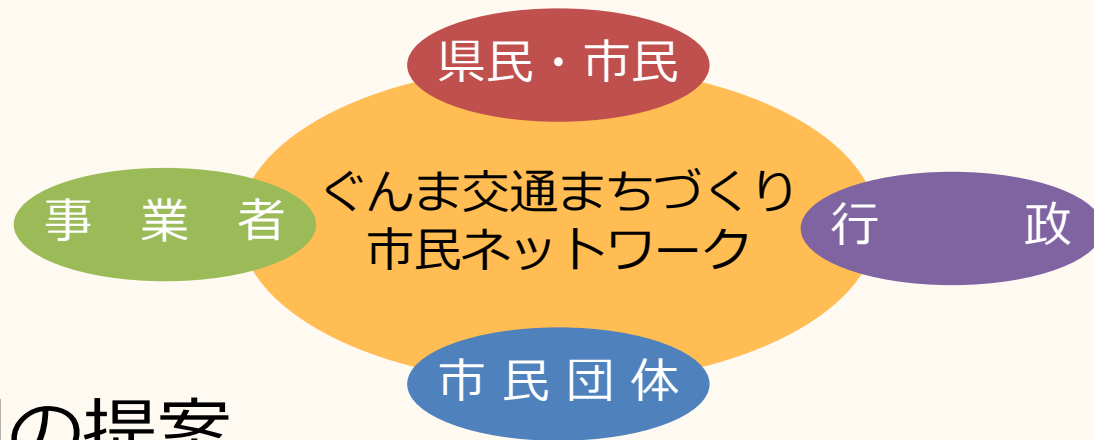


提案 + 1 : 行政・事業者・県民市民の 協働による計画・実行の場づくり

14/16

〈基幹プロジェクト〉

行政・事業者・県民市民の協働による「ぐんま交通まちづくり
ネットワーク」



・個別の提案

行政・事業者・県民市民の協働による
フォーラム・シンポジウムの開催



- 本提案は構成団体で分担し以下団体に提出 & 説明を予定

行政：群馬県、前橋市はじめ関係市町村、国交省関東地方整備局等

事業者：JR東日本はじめ県内鉄道事業者、県内バス事業者、タクシー事業者等

商工・観光関連：関係市町村の商工会議所・観光協会

報道：上毛新聞社はじめ大手新聞社、NHK、群馬テレビ等

- 提案にとどまらず、実行に向けてシンポジウムの開催を
2026年夏に実施予定！

ぐんねっとは
よりよい交通まちづくりのために
努力していきます！



Thank You

ご清聴ありがとうございました

